

【参考資料】 平成22年度 実績報告(飛騨市森林組合)

作成日:平成23年4月27日

施業集約化	計画	実績	達成率	今後の対応	備考
数量	174ha	218ha	125.3%	H23予定:216ha	
いつ	4月~3月	4月~3月	/	年間を通じて森林所有者に対する働きかけを行うが、調査・選木を実施し、提案書の作成次第施業同意を得る。 森林組合職員の担当者を中心に森林所有者への働きかけを強化する。	
誰が	施業集約化担当: 荒井 英夫 外	施業集約化担当: 荒井 英夫 外			
どういう方法で	広報誌への掲載 個別訪問 現地説明会(地域 座談会)	各森林施業組合 への働きかけ 個別訪問 現地説明会 (地域座談会)			

下刈・除伐	計画	実績	達成率	今後の対応	備考
数量	7ha	0ha	0.0%	H23予定:10ha	調査の結果対象林分なし。
いつ	7月~9月		/	7月~8月 森林組合 適期に実施し植栽木の生長を促進	
誰が	森林整備担当: 荒井 英夫				
どういう方法で	適期に実施し植栽 木の生長を促進				

切捨間伐	計画	実績	達成率	今後の対応	備考
数量	130ha	91.4ha	70.3%	H23予定:130ha	人工林+育天施業1.4ha
いつ	4月~3月	4月~3月	/	年間を通じて切捨間伐を行う。 飛騨市森林組合 H21年度の遅れを取り戻すため、 組合事業の中心と位置付けで実施 する。	
誰が	森林整備担当: 荒井 英夫	森林整備担当: 荒井 英夫			
どういう方法で	未成熟または搬 出困難な箇所を切 捨間伐	未成熟または搬 出困難な箇所を切 捨間伐			

利用間伐	計画	実績	達成率	今後の対応	備考
数量	30ha	33ha	110.0%	H23予定:30ha	
いつ	4月~3月	4月~3月	/	3年目となり、年間を通じて素材生 産・販売し、目標数字を達成する。 飛騨市森林組合 継続して利用可能なトラック運搬用 の幹線を開設して利用間伐を行 う。	
誰が	林産担当:沼田克 也	林産担当:沼田克 也			
どういう方法で	既設道に加え、対 象林分への作業 路の開設を行い 利用間伐	既設道に加え、対 象林分への作業 路の開設を行い 利用間伐			

作業道開設	計画	実績	達成率	今後の対応	備考
数量	W=3.6m、L=2,500m	W=3.6m、L=2,347m	93.9%	H23予定:3,000m	
	W=3.0m、計画なし 計 L=2,500m	W=3.0m、実績なし 計 L=2,347m	93.9%		
いつ	6月~11月	6月~11月	/	できる限り早期に開設を行い、降 雪期間前に搬出作業を終える。 直営とともに林建協働事業として、 継続していく 組合はオペレータの養成、施工は 建設事業者との協議を行いながら 実施	
誰が	飛騨市森林組合直 営、ひだ森林整備協 議会	飛騨市森林組合直 営、ひだ森林整備協 議会			
どういう方法で	一部路線を協議 会へ委託発注	一部路線を協議 会へ委託発注			

素材生産		新規チーム設立(H21)		内容	
新規構築作業システム(機械の組合せ、種類・規格・台数)				伐倒、枝払い、玉切り:ハーベスタ1台、プロセッサ1台、チェンソー → 木寄せ:グラップル1台(0.45)、グラップル付きフォワーダ → 搬出:フォワーダ1台(6t) → 造材:ハーベスタ、チェンソー → 積込:グラップル(0.45) → トラック(7t、その他)	
素材生産チームの人員数(人)	実施前 → 実施後 (H21) (H22)			2チーム(3人/班)	2チーム(3人/班)
実稼働日数(日)				244日	271日
素材生産性(m ³ /人・日)				5.67m ³ /人・日	7.57m ³ /人・日
素材生産費(円/m ³)	H22計画(実績)			車両系:9,000(7,600)円/m ³	
年間素材生産量	計画	実績	達成率	今後の対応	備考
モデル団地内	3,000m ³	2,377m ³	79.2%	H23予定:3,000m ³	主伐・間伐
モデル団地外	5,850m ³	9,937m ³	169.9%	集約化団地を19箇所設置	
合計	8,850m ³	12,314m ³	139.1%		

上記のほか、プロジェクト推進のために講じる具体的取り組み							
計画		実績		達成度検証方法		今後の対応	
森林施業プランナーの育成		・国研修を1名が受講し、プランナー認定を受けた		計画された集約化施業団地での施業提案件数と承諾・実施件数		・森林施業プラン作成教育を行い実践できるよう育成する ・H23年度に県施業プランナー研修に1名受講させる	
プロジェクトの組合員、一般市民に対する周知		・組合員等を対象に現地説明会を開催(2回) ・地域座談会の開催(2回)		森林所有者への聞き取り調査 年1回		・組合広報誌や総代会資料への掲載、事業が完成後各モデル林に看板等を設置して引き続き周知を行う(3箇所)	
森プロスタッフの技術向上を図るための研修会の開催		・森プロ団地内で森林組合の技術者を対象に利用間伐研修会を開催(2回) ・フォレスト・アメニティ研究所より鋸谷氏を招き、「利用間伐と健全な山づくり」についての講演会を実施(1回) ・森林評価士研修会(1回)		研修の開催回数		・森林整備と林産との施業に対する共通認識が必要なため、現場での研修会を合同で行い、プロジェクト全スタッフの技術向上を目指す(年度当初に1回)	
天然林施業効果の実証(毎年)		・H22年度は2箇所実施(計1.4ha)		試験区域を設定し、施工の効果を検証(年1回)		・試験区域での結果を飛騨市や地元施業組合等へ報告し、普及啓発を図る。	